

輝緑祭には多数お越しいただきありがとうございました。それぞれの教室には、図工の作品、農園活動を含んだ総合の学習記録、教科ごとの学習のまとめなどを展示しました。ご家族の皆さんに自分の作品を見てもらえることが子どもたちにとってはうれしいことだったのではないかと思います。また、輝緑祭は保護者の皆さんに参加していただける行事の一つであり、学校に対する理解を深めていただける機会としてこれからも大切に、皆さんのお力をお借りしながら今後よりよいものにして参りたいと考えております。

【弱さを克服】

学校での様々な体験を通してたくさんのかんことを身につけていく子どもたち。体験することの中には、自分の得意なことやすきなこともあればそうでないこともあります。特に、自分にとって苦手なことに取り組まなければならないときは、緊張もするでしょうし、他の事に取り組むときよりも何倍もの力を必要とするところもあるでしょう。しかし、だからといって避けてばかりはいられません。

ときに、子どものことを思うあまり、親が子どもをその緊張から解放してあげようとし、先回りして教員に何らかの配慮を求めてくることもあります。例えば、授業での活動、登下校におけるグループ作り、遊びの仲間作り、宿泊行事などでの部屋割りなど、その場面は様々です。

当然のことながら、それらの要求（希望）に対しては、お聞きした上で可能かどうか、またそうすることが子どもにとってよいことかそうでないのかについてを考えた上でお返事することになります。大切なことは、困難なことがあっても、それを克服したいという気持ちが子ども自身にあるかどうかということであり、まわりで子どもを見守る私たちが子どもがそういう気持ちになるように導いていくということでしょう。

私たちが目指すきめ細やかな子どもとの関わりは、子どもたちを成長させるためのものであり、それは保護者の皆さんの願いと通じるものであると考えています。

【自分で起きる】

朝登校してくる子どもたちの中には、元気いっぱいの子もいれば、少し眠そうにしている子もいます。「おはようございます」という挨拶からその子どもの体調や心の状態を推し量ることもできます。

多くの子どもたちは朝学校で遊びたいのでできるだけ早く登校したいと思うようですが、ときどき8時20分ぎりぎりになって登校してくる子や遅刻してしまう子もいるようです。

さて、子どもたちの朝の目覚めはどういう状況になっているのでしょうか。目覚まし時計を使って、または使わなくても自分で起きる子もいれば、家族に声をかけられないと起きることができない子もいるかもしれません。毎日のように朝起こすのが大変というような子はいませんか。何度も声をかけないと起きない子、そのうち起こしてくれる人に対して「うるさい」「なんでもっと早く起こしてくれないの」などと言い始める子はいないのでしょうか。

自分で起きるとするのは、自分の意思で行動する一日の最初の行為です。この一日の始まりの行為が人を頼らなければならないというのはやはり「問題あり」と言えるのではないのでしょうか。自分にとって大切なことをできるだけ自分の意思で行うことができるかできないかに通じる一つの場面と考え、生活の見直しが必要な場合もあるかもしれません。

【一人ひとりのカラー】

本日、前期通知表「のびる子」を子どもたち一人ひとりに持たせました。、の基準については保護者の皆様にはご理解いただいていると思います。（1年生は初めての通知表ですから別紙による説明があります。）

各教科の評価については担任、教科担任が半年の様子を見てつけたものです。また、所見は学習面と生活面の2つに分かれておりますが、基本的には子ども一人ひとりの成長を見つけ、それを保護者の皆様にお知らせするものです。中にはまだ具体的な成果、結果として表れていないものもあるかもしれませんが、まったく変化が見られない子どもは一人もいません。所見に書かれたこれからの課題と思われることからは、教員が今後その子に身につけてほしいと思う力であり、なんとか身につけさせていくという決意の表明であると考えています。当然のことながら、子どもと教員だけの力でできることばかりではありません。保護者との協力なしでは実現できないことも多々あることでしょう。しかし、後期の通知表の所見には、必ず今回示された課題について前進した結果が記載されると信じています。それだけに、この所見についての学校と保護者の共通理解が図られなければならないと思います。子どものよいところを指摘されることは嬉しいこと、課題を指摘されることは嬉しくないことかもしれませんが、課題の無い子などいないはず、課題が一つでも明確になっているとすれば、それは子どもにとって幸せなことかもしれません。誰と比較することなく、一人ひとりのカラーを大切に、それをさらに光り輝くものにしていきましょう。